

第3学年1組道徳学習指導案

平成23年6月14日(火)第5校時

指導者 教諭 T1

T2

1 主題名 より良い校風に 4-(7)

資料名 「日本一美しい学校に」

〔出典「彩の国の道徳」中学校『自分をみつめて』埼玉県教育委員会〕

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目4-(7)では、「学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。」ことをねらいとしている。生徒一人一人が、学級や学校において自分の役割を果たし、協力して生活することを通して、集団の一員としての意識を高めることができる。さらに、学校には独特の校風がある。先輩から後輩へと継承され、よりよい校風を築き上げようとする一人一人の学校への思いと努力が生まれるものである。

中学生にとって、学級や学校は重要な生活の場である。したがって、自分の学級、学校に対して愛着や誇りをもつことは大切である。学校の伝統や歴史を受け継ぎ、さまざまな体験を通して信頼できる人間関係を築くことにより、よりよい校風を樹立することができる。そこで、体験を通して学校の人々に感謝や尊敬の念をはぐくみ、協力してよりよい校風をつくらうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態について

(3) 資料の活用について

本資料の主人公は、何となく環境委員会の委員長に立候補する。初めはそこそこやればいらいに思っていたが、委員会の話し合いでよい案が出ない中、苦し紛れに言った「日本一美しい学校にしよう」が目標となり、さまざまな活動が始まる。活動に取り組んでいるうち、自分も熱い気持ちになっていく。次第に友達の協力も増え、学校に来るのが楽しみになっている自分に気が付く。そして、校長先生から声をかけられ、「日本一美しい学校がみんなの母校になる」と言われる。

授業では、何となく委員会に入った主人公が委員長となり、自分が発言したことが委員会の目標となり、思わぬ方向に動き出していったときの不安な気持ちを十分に考えさせたい。そして、活動がどんどん進み、友達の協力も広がっていくのを感じたときの主人公の気持ちを話し合わせ、自分たちの生活を振り返らせて考えさせたい。

自分が何らかの形で学校と深く関わることにより愛校心は芽生える。自分の学校に愛着をもち、よりよい校風を築くために自分たちにできることを考えさせ、実践に生かしていきたい。

3 ねらい

学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風をつくらうとする態度を育てる。

4 他の教育活動等との関連

事前指導	・母校についてのアンケートを実施する。
道徳	・資料名「日本一美しい学校に」
清掃活動 委員会活動	・清掃や委員会活動など、3年生が学校の中心となり、教師とともによりよい学校づくりをしようとする態度を育成する。
事後指導	・清掃活動やボランティア活動などで、母校を大切に、よりよい校風をつくらうとする取組を認め、声かけをする。

5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点☆評価の観点
導入	<p>1 学校にまつわる資料を提示し、母校への関心を高める。 <T2></p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの学校には自分たちの知らない、いろいろな出来事があった。 長い歴史がある。 みんな母校を大事にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導上の留意点☆評価の観点 学校にまつわる資料から、自分の学校に対する関心を高めさせる。 ☆学校を大切にしている気持ちを理解できたか。
展開	<p>3 資料を読んで話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>・条件、状況の確認 ・資料の範読</p> </div> <p style="text-align: right;"><T2></p> <p>○ 印象に残ったところや友達の意見を聞きたいところなどを発表する。</p> <p>《資料にそっての話し合い》</p> <p>① 自分が言ったことが目標になってしまったときの「ぼく」はどんな気持ちだっただろうか。 <T1></p> <p>② 気がつけば自分が活動の先頭に立っていたときの「ぼく」はどんな気持ちだっただろうか。 <T1></p> <p>〔補助発問〕</p> <p>・生徒会長に「全校をあげて取り組むっていいよな」と言われたとき、なぜ充実感を感じたのだろうか。 <T2></p> <p>③ 校長先生の言葉を聞いて、「ぼく」はどんなことに気づいたのだろうか。 <T1></p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・主人公…ぼく 環境委員長になり、「日本一美しい学校にしよう」という目標を提案する。</p> <p>・神山さん…副委員長 ・校長先生 「日本一美しい学校がみんなの母校になる」と声をかける。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 苦し紛れに言ったことなのに、どうしよう。 どんどん話し合いが進んで、今までの活動ではすまなくなってきたり不安な気持ち。 とりあえず決まったことはやらなくちゃ、というくらいの気持ち。 仕事が増えてしまうのは困るなあ。 みんなが楽しそうに活動しているのを見て、自分の意見でみんなが動いているのだから、自分も頑張ろうと思った。 神山さんや阿部先生に認められてうれしくなった。 委員会だけの活動でなく、他の人たちにも広がっていく様子を見て頑張らなければと思った。 「全校をあげて取り組むっていいよな」と生徒会長に言われ、自分も充実感を感じた。 みんなで自分達の学校を大切にしているという実感が湧いたから。 自分の一言が全校を動かし、学校としての活動になったことに喜びを感じたから。 自分の一言が大きな活動に広がっていき、みんなで学校をきれいにしようという気持ちが高まっている。 母校を愛する気持ち。 これからも母校のために自分にできることがあるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の内容を把握しやすくするため、範読の前に登場人物、状況を確認する。 生徒の感想を生かしながら、本時の話題を設定したい。 積極的ではないけれど、とりあえず活動しようという主人公の気持ちを押さえる。 ☆委員長になり、苦し紛れに発言したことが目標になってしまい不安になっている主人公に共感することができたか。 なぜ、積極的に委員会の活動をし始めたのかについて考えさせる。 他から自分の意見が認められ、自信を持てるようになった主人公の気持ちをとらえさせる。 活動の広がりが意欲の高まりにつながっている気持ちを押さえる。 補助発問によって話し合いを深めさせる ☆主人公の心の変容をとらえることができたか。 みんなで協力し合って学校をよりよくすることのすばらしさに気づかせる。 ☆母校を大切に、よりよい校風を築いていこうとする気持ちを高めることができたか。

		ということに気づいた。 ・みんなで協力すると大きな活動になることに気づいた。	
終	5 今日の授業で学んだことを書く。〈T1〉	・自分と道徳的価値の関わりを書く。	・これからの生き方についての課題意識をもたせたい。
末	6 教師の話を書く。		・母校を大切にしている人の話を紹介し、余韻を残す終末とする。

6 備考 在籍生徒数 男子 18 名 女子 21 名 合計 39 名

7 板書計画

